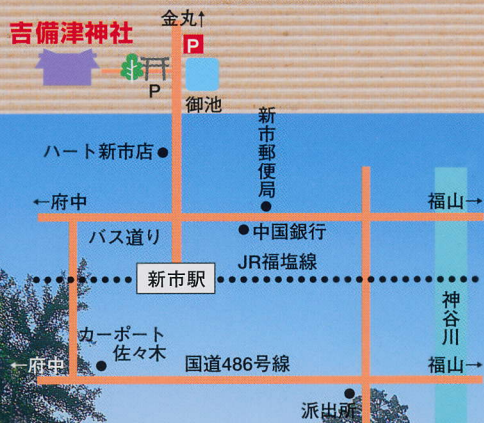


備後国一宮
吉備津神社社務所

〒729-3104広島県福山市新市町宮内400

電話 0847-51-3395

吉備津神社



備後国一宮
吉備津神社

国指定重要文化財

御参拝のしおり



御池

昔はここでみそぎをし
心身を清め赦って
一宮様にお詣りしました。



備後国一宮

吉備津神社

大鳥居

大鳥居は慶安元年（一六四八）福山城主水野勝成公が誠心こめて御本殿以下御寄進御再建になりました時のもので、第七代後陽成天皇の皇子、堯然法親王の御書により銅の扁額が掲げてあります。

随神門

全国で随神門が二つあるのは備後一宮のみであります。十月神無月には全国の八百万神々が、出雲へ集合され神政（神の政治）、今でいう国会を開かれましたが、吉備津彦命のみが欠席され、どうしたものかと心配された大国主命は二人の使者を備後国へ派遣されましたが、備後国は大祭の最中この二人の使者は歓待を受け、以後吉備津彦命の親衛の門守として未永く仕えることとなり、上下の随神門が作られたという伝説があります。

以後、備後国は十月を神有月として有名です。



随神門



神楽殿
県重要文化財指定



御本殿 国指定重要文化財

御本殿

備後国総鎮守一宮。御祭神は吉備津彦命を奉斎してあります。一宮「イツキユウ」さんと親しみをもって呼ばれています。

第七代孝靈天皇の皇子で、第十代崇神天皇の御代四道將軍に任せられ、山陽道に派遣されて人民を愛撫して、農業に海陸の交通に、地方開拓に偉大な功績のあった吉備開国の恩恵神であります。（四道將軍＝北陸＝大彦命、東海＝武渟川別命、西道＝吉備津彦命、丹波＝丹波道主命）大神の御高德を仰ぎ尊んで初めて宮内にお祀りしたのは、平安時代第五十一代平城天皇の大同元年（806）であります。現代の御社殿は慶安元年（1648）福山城主水野勝成公が造営されたもので、昭和四十年三月、国の重要文化財に指定。



公孫樹
(天然記念物)

公孫樹（天然記念物）
公孫樹は天然記念物（日本老樹名木第四一五号）であります。春は緑、秋は黄金の錦を織りなして、あざやかな光りに映えて人々の心を清らかにします。この大広場は毎年十一月二十三日（勤労感謝の日）前後で四日間、中国地方屈指の名高い市立大祭に、各種興業・露天商数百と共に天幕を張って、秋の豊作をにぎわい祝い近郷近在の人々のオアシスであります。



十二神社
境内には、多くの摂社・末社がありますが、十二神社は厄払いの神として崇拜され、毎年厄落として多くの方々が参りされます。



石灯籠

寒桜

日本にまれな寒桜は、11月から2月頃まで寒風吹きすさぶ雪の中雄々しくも可憐な花を開いて、参拝者の心をなごませます。





参集殿正面外観



社務所カウンター外観

年中行事

一月
初詣

二月三日
節分祭

ほら吹き神事

六月三〇日
大祓祭

十一月十五日
七五三祭

十一月二十三日
(前後四日間)
市立大祭

十二月三十日
交通安全祈願祭

毎月一日・十五日
月次祭



市立大祭



初詣風景



市立の賑わい



七五三祭



節分祭 (奇祭、ほら吹き神事)



大祓祭 (芽の輪ぐり)